

森の通信

宮崎県総合博物館だより

第 18 号

Museum and Cultural Institutions of Miyazaki Prefecture

発行日/平成 5 年12月10日

発行 / 宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮 2 丁目 4 番 4 号 TEL (0985) 24-2071

スコットランド国立美術館展



ポール・ゴーギャン〈三人のタヒチ人〉 © National Gallery of Scotland

スコットランド国立美術館は、英国北部スコットランドの首都エディンバラにある三つの美術館の総称で、14世紀から20世紀に至る西洋美術の名品の数々が収蔵されています。

この展覧会では、16世紀のイタリア、スペイン美術をはじめとして、印象派から後期印象派、さらには20世紀絵画にいたるまで、西洋美術の本流をたどることのできる巨匠の油彩画を一堂に展示紹介します。併せて豊かな自然と古い伝統を背景に多様な展開をとげたスコットランド美術をも紹介します。

主な出品作家

〈イタリア、スペイン美術〉

ヴェロネーゼ、グレコ、ゴヤほか

〈ロココ美術〉

ブーシェ、シャルダンほか

〈印象派〉

ルノワール、モネ、シスレー、ピサロほか

〈後期印象派〉

セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン

〈ナビ派〉

ボナール、ヴイヤールほか

〈現代美術〉

ピカソ、レジェ、エルンスト、スーチン、ミロ、

ココシュカ、ニコルソン、デュビュッフエほか

〈イギリス、スコットランド美術〉

ゲーンズバラ、ロセッティ、ラムズィほか

(高橋)

会 期

平成 6 年 1 月14日(金)～2 月13日(日)

開館＝午前9時～午後5時 (入館は4時30分まで)

休館日＝1/17、1/24、1/31、2/7

入館料

大 人 1000(800)円

高・大生 600(400)円

小・中生 400(200)円

※()内は、前売・団体(20名以上)の割引料金

話題のコーナー展

日向の薬草研究のパイオニア — 賀 来 飛 霞 —

豊後国（現在の大分県）に生まれた賀来飛霞は、江戸末期から明治期に活躍した屈指の本草学者です。ところで、飛霞が、日向の植物や民俗の研究に大きな足跡を残したことは案外知られていません。

もともと医師であった飛霞は、「本草学」一すなわち、薬草や薬となる物質を調べる実用的な学問に早くから強い関心をいただいていた。生涯を通じて彼の研究のフィールドは、奥羽、関東、小笠原にまで広がり、日向にも2度にわたり来遊しました。

特に、1845（弘化2）年には、延岡藩の招きで、藩領をくまなく調査し、「高千穂採薬記」を著しました。これは、植物だけでなく各地の産物や人々の暮らしまで、克明に記録するなど、日向の本草学や民俗学研究の先駆けとなりました。本館には、「高千穂採薬記」や「南遊日記」などの日向における紀行文をはじめ、日向のみならず全国各地で採集した植物や鉱物などの標本類が収蔵されており、貴重なコレクションと

なっています。

今回の展示では、これらの資料とともに、大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館所蔵の飛霞のえがいた植物や鳥類などの図譜を写真で展示し、彼の業績の一端を紹介します。（津隈）

〔展示期間：平成5年10月26日（火）～平成6年2月20日（日）〕



高千穂採薬記



鮎やかな「高千穂採薬記」より

飲 食 用 具

西都原資料館の民俗資料展示室では、現在、「飲食用具」のコーナー展示を行っています。

日常（ケ）と特別な日（ハレ）とでは、使われる用具が異なっていました。ケの朝夕の食事では、いろりを囲み、一人ひとりが箱膳を使用しました。椀や皿は、陶磁器が普及する以前は、御器とよばれる木器が多く用いられていました。また、正月や結婚式など、ハレの膳や椀は特別なものを用い、祝いの場を華やかにしました。

西都原周辺では、山林の豊かな材を生かした飲食用具が多く作られました。キザラヤクリバチ、メンバ、スイトウなど、生活のさまざまな場面で広く愛用されました。

本展示では、食生活に欠くことのできなかった椀や皿などの食器類、飯びつや飯かごなどの飯器類、水筒や酒器の飲器類、箱膳や角膳などの膳卓類を、これまでに収蔵された資料の中から紹介します。（清水）

〔展示期間：平成5年11月4日（木）～〕



展 示 風 景



メンバ



スイトウ

驟雨之図 山内多門

激流の上に落葉を舞わせている一陣の風。臨場感溢れる風景画です。

山内多門は明治11年都城市に生まれました。幼少より画才に恵まれ、4歳の時、巧みな絵を描き大人を驚かせたと言われています。16歳時に狩野派の画家中原南溪に師事しましたが、師の没後、画家への志望を捨てきれず上京、川合玉堂の門を叩きました。その後狩野派の大家橋本雅邦にも師事して、狩野派の技法を修得しつつ独自の画境をつくりあげました。文展・帝展で活躍し、帝展の主任審査員に推されています。

この「驟雨之図」は、多門30歳の時の作で第1回文展で三等賞を得たものです。新進日本画家としての存在を確立した作品と言われます。

砕け散る激流、長年の風雨に耐えた岩石や樹木の力強い表現は、狩野派の技法を取り入れ、山嶺や溪流等の微妙な濃淡は四条派のものを用いて、自然の織り成す一瞬の情趣を見事にとらえています。画道を究めようと精進する、若き

多門の心境を感じ取ることのできる秀作といえましょう。(家中)



驟雨之図

一件落着。ほんとうは縄文土器だった！



約8000年前の縄文早期の壺(平樽式土器)

大正の終わりに、野尻町大字紙屋漆野原から出土して以来、宮崎神宮徴古館、県立博物館、総合博物館と転々としながら収蔵庫の奥深く眠っていた土器があります。この通称「弥生のつぼ」といわれてきた土器は、九州の弥生土器とは似

ても似つかぬ変わった形、焼きの具合、色あい、粘土の質などから、「弥生時代の土器だろうけれど……どこか他の地方から持ちこまれたものでは……」とずっと疑われ、肩身の狭い思いをしてきました。ところが最近、縄文時代早期の遺跡の発掘が進み、これまでほとんど知られていなかった縄文早期の壺形土器の存在がにわかに明らかになってきました。発見されるものは、ほとんど破片ですが、つなぎ合わせると「弥生のつぼ」の首の長い独特の形に復元できるではありませんか。こうして、研究者の間でも、ようやく縄文早期(約8000年前)の土器であるとお墨付きがもらえるようになりました。発見以来、約70年を経て、晴れて「縄文土器」に復帰したわけです。完全な形で発見されたこの時代の土器はたいへんにめずらしく、今のところ南九州でただ一つの貴重な資料です。最近では、全国的な書物にたびたび紹介されるなど脚光を浴びています。(近藤)

1 月	2 月	3 月
-----	-----	-----

◆特別展

1/14 スコットランド国立美術館展 2/13

◆コーナー展示

自然史

水田に生きる植物たち 1/30 2/1 宮崎のカワトンボ

考古

石器と石材 2/13 2/16 土師器

歴史

賀来飛霞 2/20 3/1 若山甲蔵

民俗

ふるさとの正月

美術

宮崎の美術（絵画・彫刻・工芸）

埋蔵文化財センター

田代八重遺跡の調査 1/16 1/19 内野々遺跡の調査

西都原資料館

鎌と刀（2/6まで） 食食用具 馬具（2/9から）

◆普及活動

- 県民文化ホール……森の名画座—3/12「大自然の驚異」
- 埋蔵文化財センター……埋文講座—1/22「内野々遺跡の調査」 2/26「須恵器のはなし」
3/26「埴輪のはなし」

★特別展「宮崎—チョウの世界」を振り返って

自然の中の不思議さ美しさを探る「宮崎—チョウの世界」が9月18日から10月19日まで開催され、連日愛好家や家族連れ、小・中学生の団体など1万人を越す観賞者で盛り上がりを見せました。この展覧会では、宮崎県に生息するチョウを中心に国内外の1,500種、6,000点の標本が展示され、美しく神秘的なチョウの世界が紹介されました。また、生きたチョウの展示コーナー、顕微鏡を使っの観察コーナーも設置され、観賞者の興味をそそりました。